

Title	余剰品及び規格外品処理に伴うビジネスチャンスの検証
Sub Title	
Author	魚住, 彰(Uozumi, Akira) 青井, 倫一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2009
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2009年度経営学 第2400号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002009-2400

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	青井 研究会	学籍番号	80830148	氏名	魚住 彰
(論文題名)					
余剰品及び規格外品処理に伴うビジネスチャンスの検証					
(内容の要旨)					
<p>『なぜ食べられるのに食品業界で発生する余剰品は捨てられてしまうのか？もし捨てられるのであれば商品を無料で貰い受け、合法に販売する方法を見付けだせばビジネスとして成り立つのではないか』という観点で研究を進めた。</p> <p>食品業界に注目したのは、食品業界に余剰品や規格外品を販売する二次市場が存在していないという特殊な業界であるという点が大きい。研究を進める上でどのように余剰品や規格外品が発生するのかを述べてゆくが、基本的に商品の品質には全く問題のないものが廃棄対象となっている点に注目している。商品が腐っている訳でもないのに何故捨てられるのかという点に疑問を抱きながら進めてゆく。</p> <p>論文の構成は全部で5章に区分けしており、食品業界の中でも特に『食品メーカー』のみに着目して研究を進めた。この5章は大きく分けて、前半4章までが食品メーカーで発生する余剰品や規格外品の発生メカニズムを解明し、既存の商慣習や処理方法の限界点を抽出している。後半5章では、4章までで抽出した既存の限界点をいかにして打破する事が出来るのかを述べると共に新たなビジネスへ展開する可能性を探るという構成としている。</p> <p>研究を進める上で行った調査手法は、食品メーカーに対してアンケート及びインタビューを実施した。調査内容は、①食品メーカーが取引関係にある特約店との間で発生する外的要因と、②食品メーカーの中で発生する内的要因を抽出し、③抽出した要因の解決策の有無及び、限界点を探ることに注力した。</p> <p>最終的に、アンケートやインタビューで調査した結果を基に、食品メーカーが抱える根本的な問題点を抽出し、どのようにして余剰品処理における限界点を超えてゆくかを述べた。更に限界点を超えて、新たに食品の余剰品や規格外品の市場を形成する為のビジネスモデルを提示している。</p>					